



# 2020年3月期 第2四半期 決算短信補足資料

2019年11月5日  
日本水産株式会社

チルド事業の取引形態変更の影響が響き減収も、各段階損益とも増益を確保、純利益は13%増益となった。年間計画に対しても概ね順調に推移。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期比 増減		2020年3月期 年間計画	進捗率 (%)
				(%)		
売上高	3,504 億円	<b>3,454</b> 億円	<b>▲50</b> 億円	98.6	7,100 億円	48.6
営業利益	105 億円	<b>110</b> 億円	<b>5</b> 億円	104.9	240 億円	46.2
経常利益	119 億円	<b>121</b> 億円	<b>1</b> 億円	101.6	265 億円	45.8
四半期 純利益	69 億円	<b>78</b> 億円	<b>9</b> 億円	113.1	175 億円	44.7

※2019年2月よりチルド事業の取引形態をセンターフィー（販売費）と売上高を相殺する価格決定方式に変更しており、前第2四半期累計期間の売上高にはセンターフィー約50億円が含まれている。

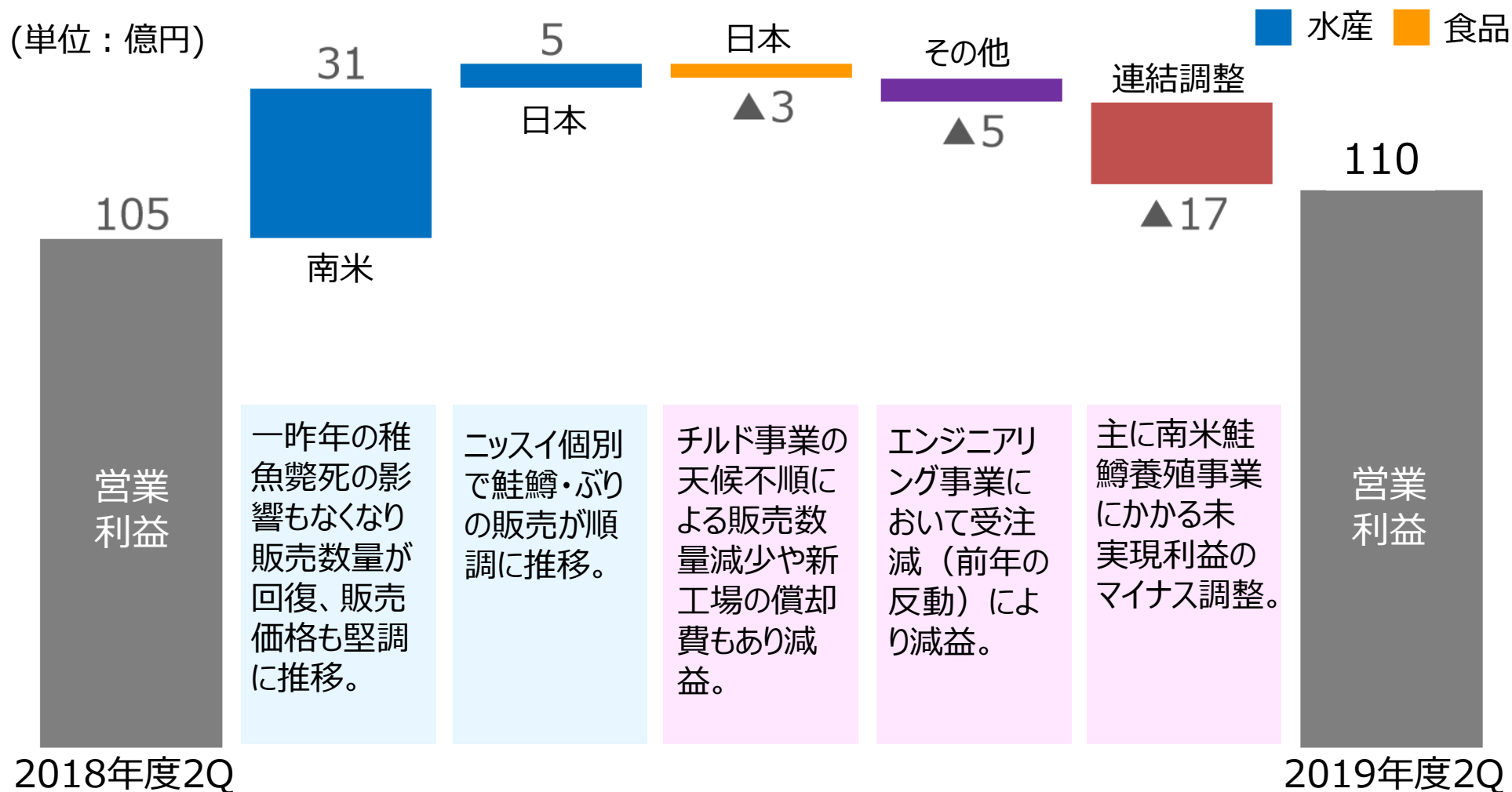
その他のエンジニアリング事業は受注減により大幅減収、食品事業は  
 チルド事業の取引形態変更の影響（約50億円）を除くと約70億円  
 の増収。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
<b>売上高</b>	<b>3,504</b>	<b>3,454</b>	<b>▲50</b>	<b>98.6</b>
水産事業	1,421	1,413	▲7	99.5
食品事業	1,706	1,728	22	101.3
ファインケミカル事業	128	137	8	106.6
物流事業	83	83	0	100.3
その他	165	90	▲74	54.8
<b>営業利益</b>	<b>105</b>	<b>110</b>	<b>5</b>	<b>104.9</b>
水産事業	37	54	16	143.0
食品事業	72	68	▲3	95.1
ファインケミカル事業	11	11	0	101.9
物流事業	9	8	▲1	87.2
その他	6	0	▲5	15.7
全社経費	▲31	▲32	▲1	104.4
<b>経常利益</b>	<b>119</b>	<b>121</b>	<b>1</b>	<b>101.6</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	69	78	9	113.1

# 主な営業利益増減要因



南米鮭鱒養殖事業は一昨年の稚魚斃死の影響もなくなり回復も、チルド事業の天候不順の影響やエンジニアリング事業の受注減もあり増益幅は5億円（約5%増益）となった。



営業利益

一昨年の稚魚斃死の影響もなくなり販売数量が回復、販売価格も堅調に推移。

ニッスイ個別で鮭鱒・ぶりの販売が順調に推移。

チルド事業の天候不順による販売数量減少や新工場の償却費もあり減益。

エンジニアリング事業において受注減（前年の反動）により減益。

主に南米鮭鱒養殖事業にかかる未実現利益のマイナス調整。

営業利益

年末の販売に向けた在庫の増加もあり、短期借入金が増加。

( ) 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

**流動資産 2,539 (+63)**

現金及び預金	95 (+6)
受取手形及び売掛金	848 (▲39)
棚卸資産(在庫)	1,417 (+130)

**固定資産 2,369 (+66)**

有形固定資産	1,425 (+50)
無形固定資産	108 (+0)
投資その他の資産	835 (+15)

**総資産 4,909 (+129)**

**流動負債 2,207 (+180)**

支払手形及び買掛金	434 (▲59)
短期借入金	1,349 (+308)
その他	115 (▲24)

**固定負債 1,008 (▲81)**

長期借入金	787 (▲82)
-------	-----------

**純資産 1,692 (+31)**

自己資本	1,499 (+35)
------	-------------

自己資本比率

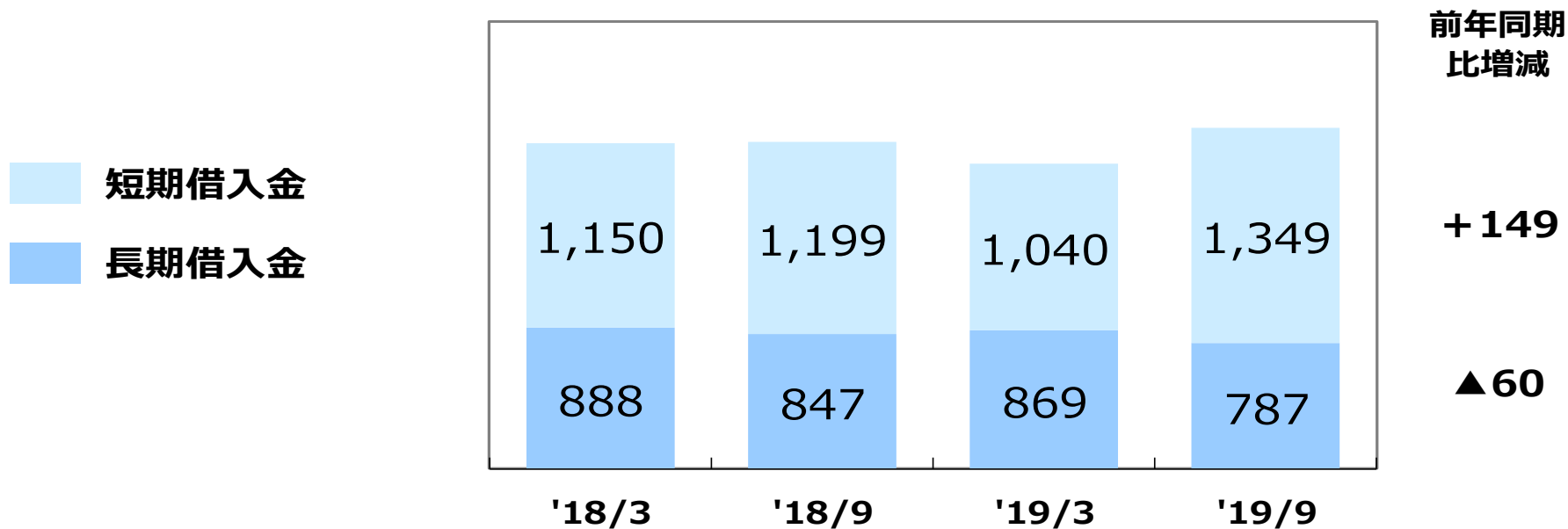
'19/3 30.6% ⇒ '19/9 30.5%

## 運転資本が増加し営業CFがマイナス

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減
・税金等調整前四半期純利益	120	119	▲ 1
・減価償却費 (のれん償却含む)	88	93	4
・運転資本	▲ 81	▲ 199	▲ 117
・法人税等の支払額	▲ 44	▲ 31	13
・その他	▲ 40	▲ 48	▲ 7
<b>営業活動によるCF</b>	<b>42</b>	<b>▲ 67</b>	<b>▲ 109</b>
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 91	▲ 137	▲ 46
・その他	43	0	▲ 43
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 47</b>	<b>▲ 136</b>	<b>▲ 89</b>
・短期借入金の増減額	59	296	237
・長期借入金の増減額	▲ 40	▲ 66	▲ 26
・その他	▲ 20	▲ 22	▲ 2
<b>財務活動によるCF</b>	<b>▲ 1</b>	<b>207</b>	<b>208</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>235</b>	<b>165</b>	

前年同期比で89億円増

(単位：億円)



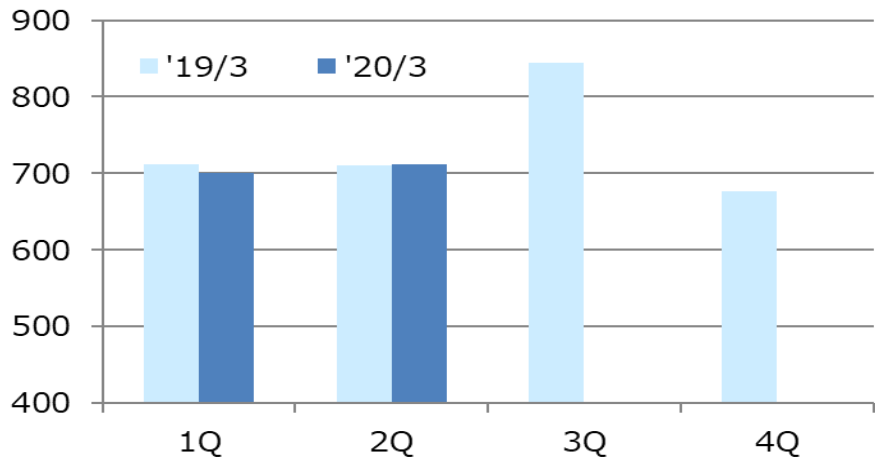
	2018/3	2018/9	2019/3	2019/9	前年同期比増減
借入金合計	2,038	2,047	1,910	2,137	+89
短期借入金	1,150	1,199	1,040	1,349	+149
長期借入金	888	847	869	787	▲60

欧州が減収も、南米の鮭鱒養殖事業が回復するとともに、国内販売にもプラス効果となり増益。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	<b>1,421</b>	<b>1,413</b>	<b>▲7</b>	<b>99.5</b>
営業利益	<b>37</b>	<b>54</b>	<b>16</b>	<b>143.0</b>

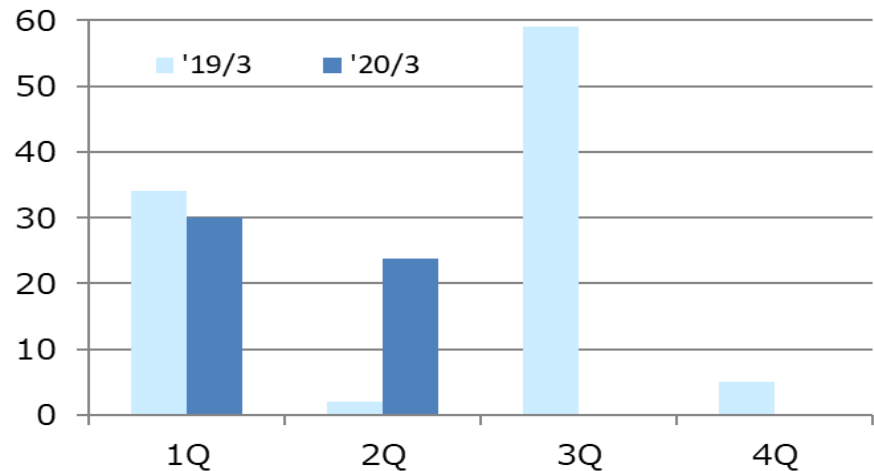
売上高（四半期別）

(単位：億円)



営業利益（四半期別）

(単位：億円)

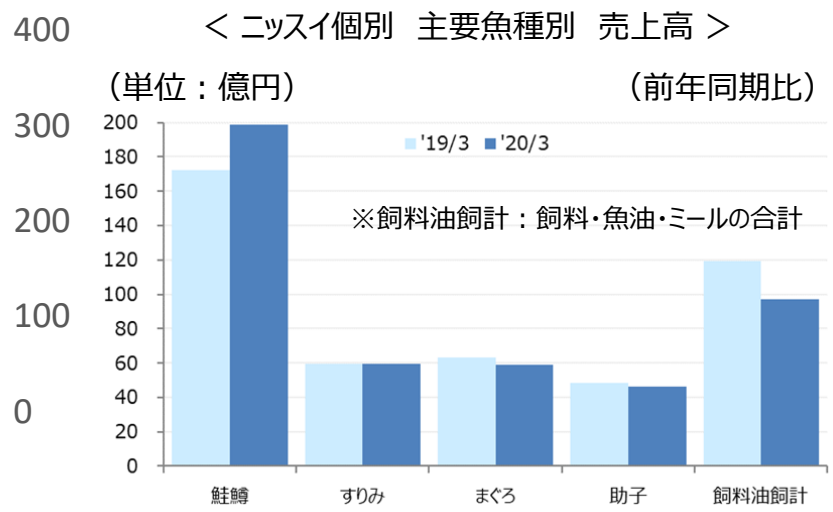
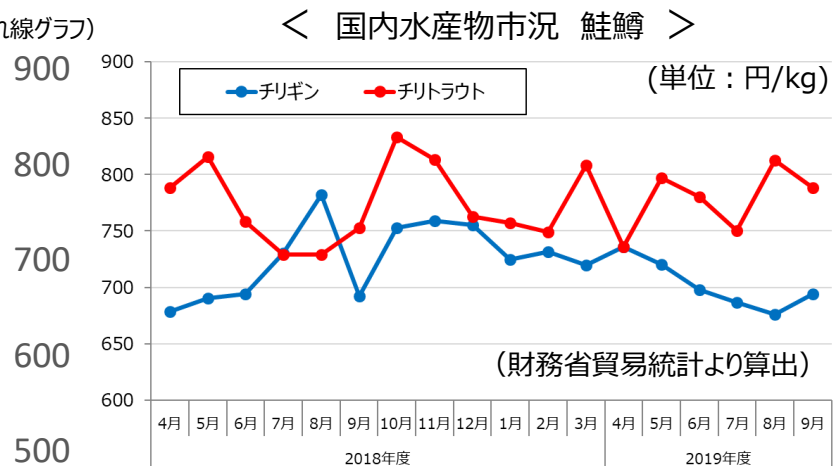
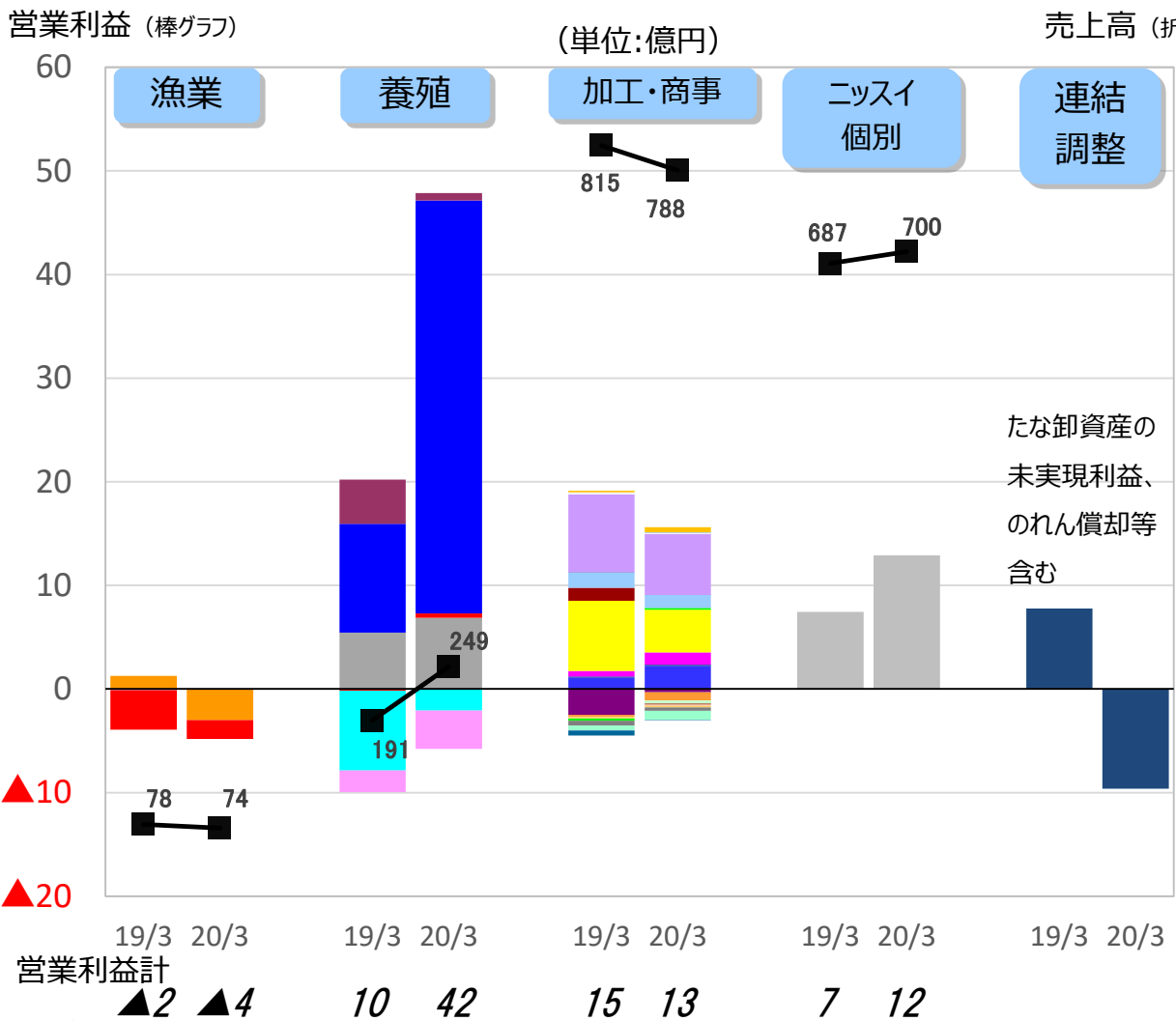




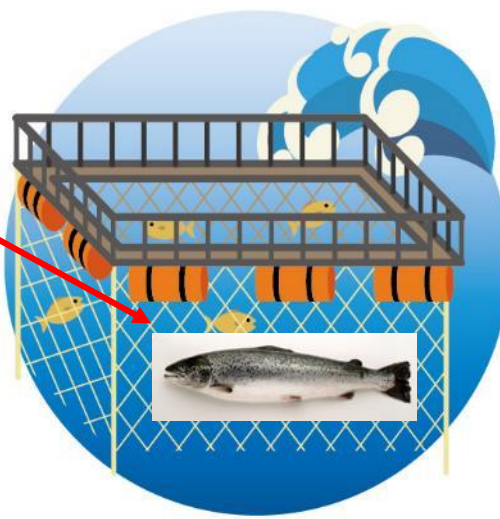
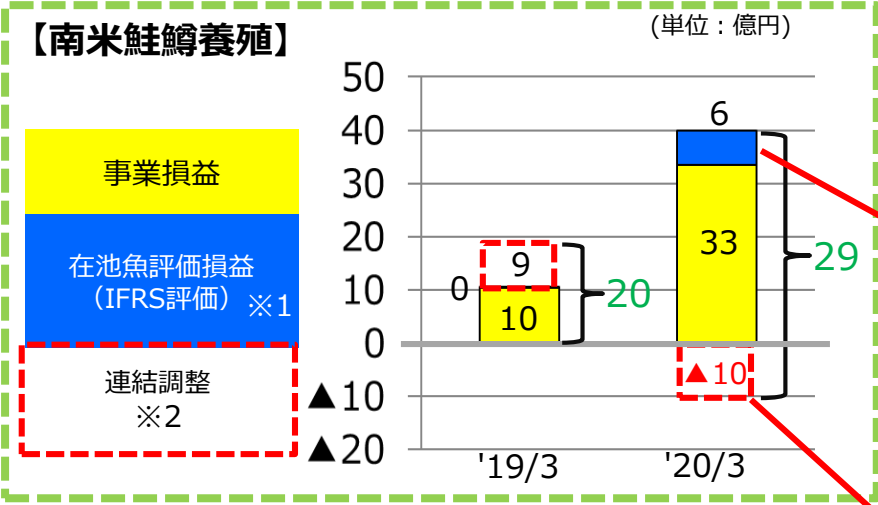
# 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



養殖事業は南米鮭鱒に加え国内ぶりが順調も、国内のまぐろ・鮭鱒は回復途上。ニッセイ個別は鮭鱒・ぶりの取扱増もあり増益。



# 【参考】南米鮭鱒養殖 在池魚評価・未実現利益について

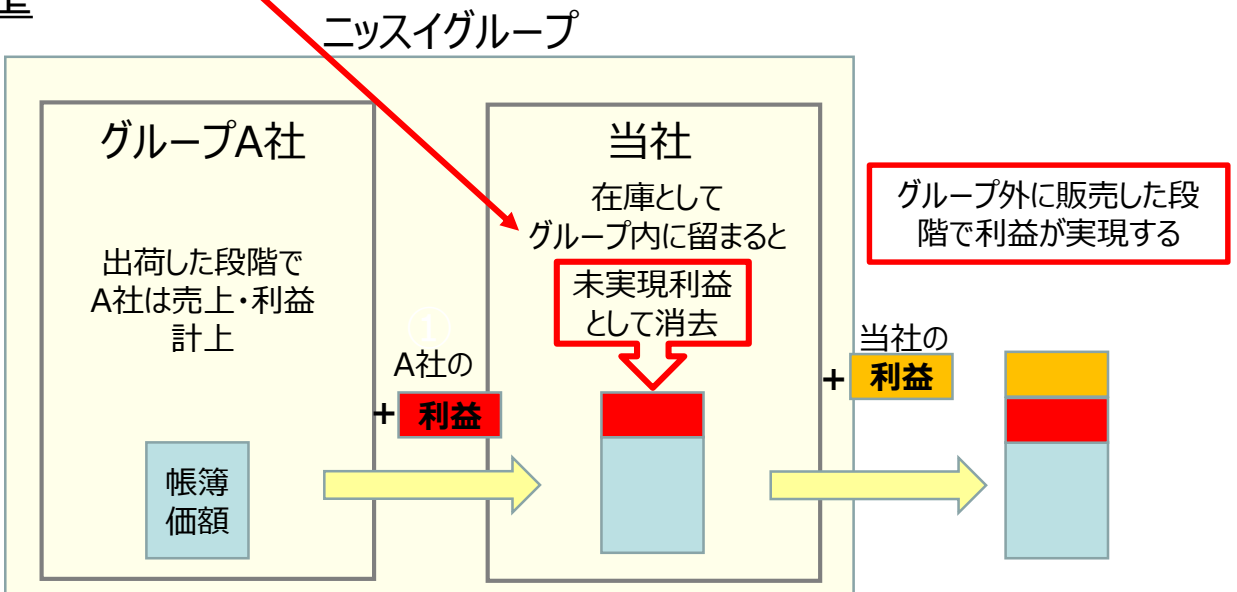


## ※1 在池魚評価損益

国際財務報告基準 (IFRS)に基づき、**一定の魚体重に達した養殖中の魚 (在池魚) について出荷想定価格による評価**を実施

## ※2 在庫に含まれる未実現利益の調整

**グループ内の在庫に含まれている利益を消去**する決算調整

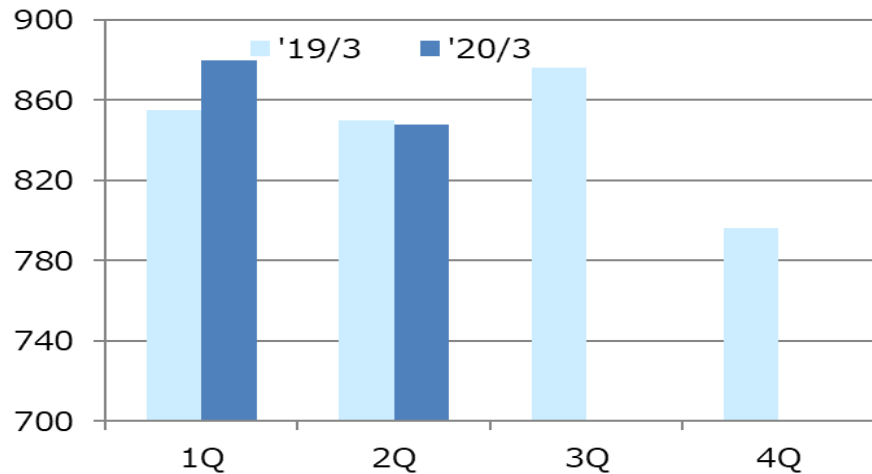


チルド事業を除き総じて販売は好調だが、利益は若干減益。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	<b>1,706</b>	<b>1,728</b>	<b>22</b>	<b>101.3</b>
営業利益	<b>72</b>	<b>68</b>	<b>▲3</b>	<b>95.1</b>

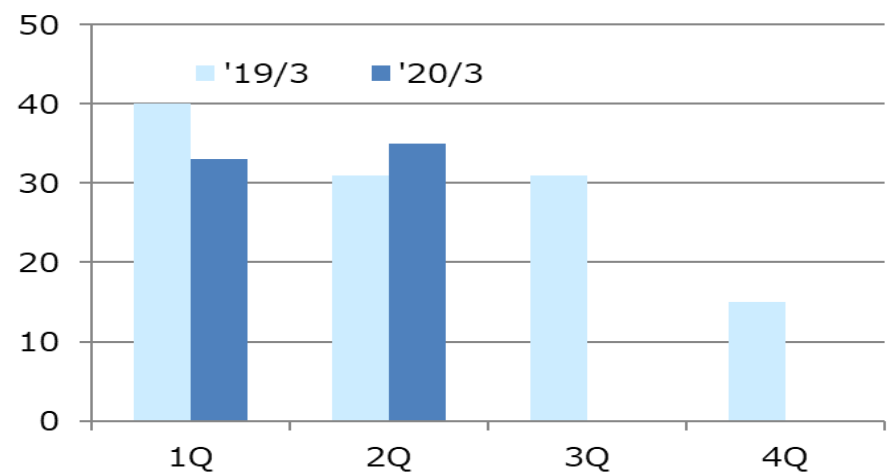
売上高 (四半期別)

(単位：億円)

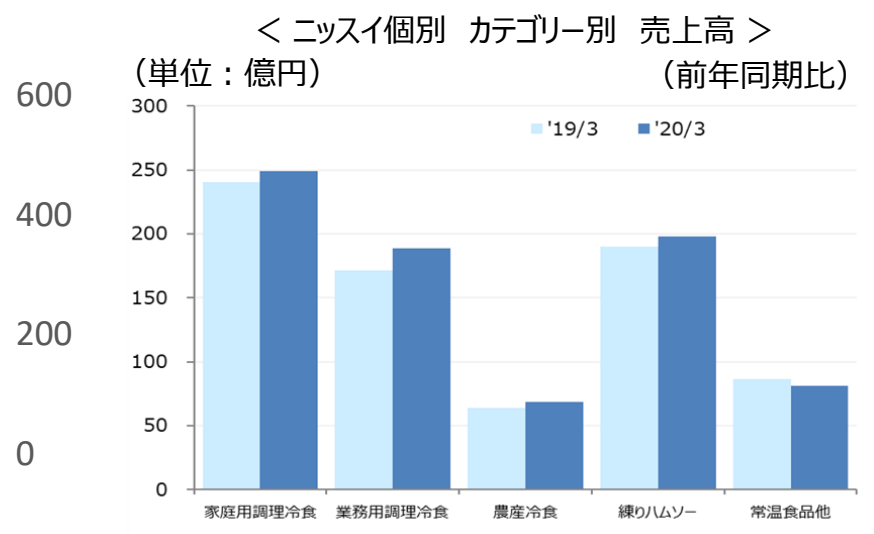
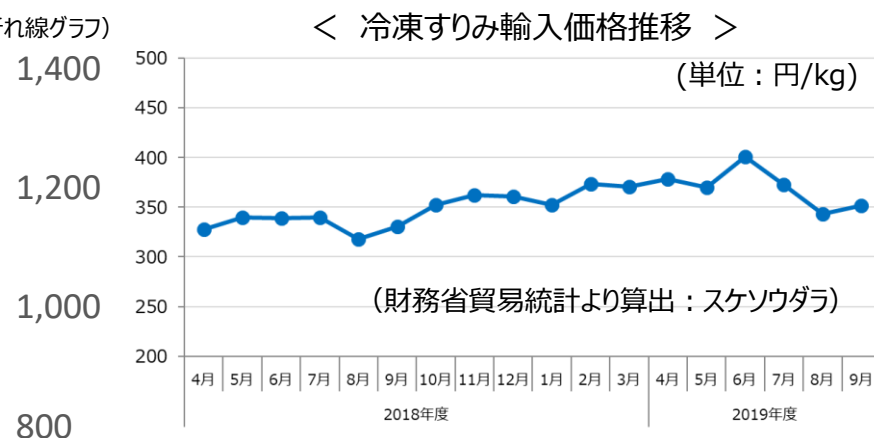
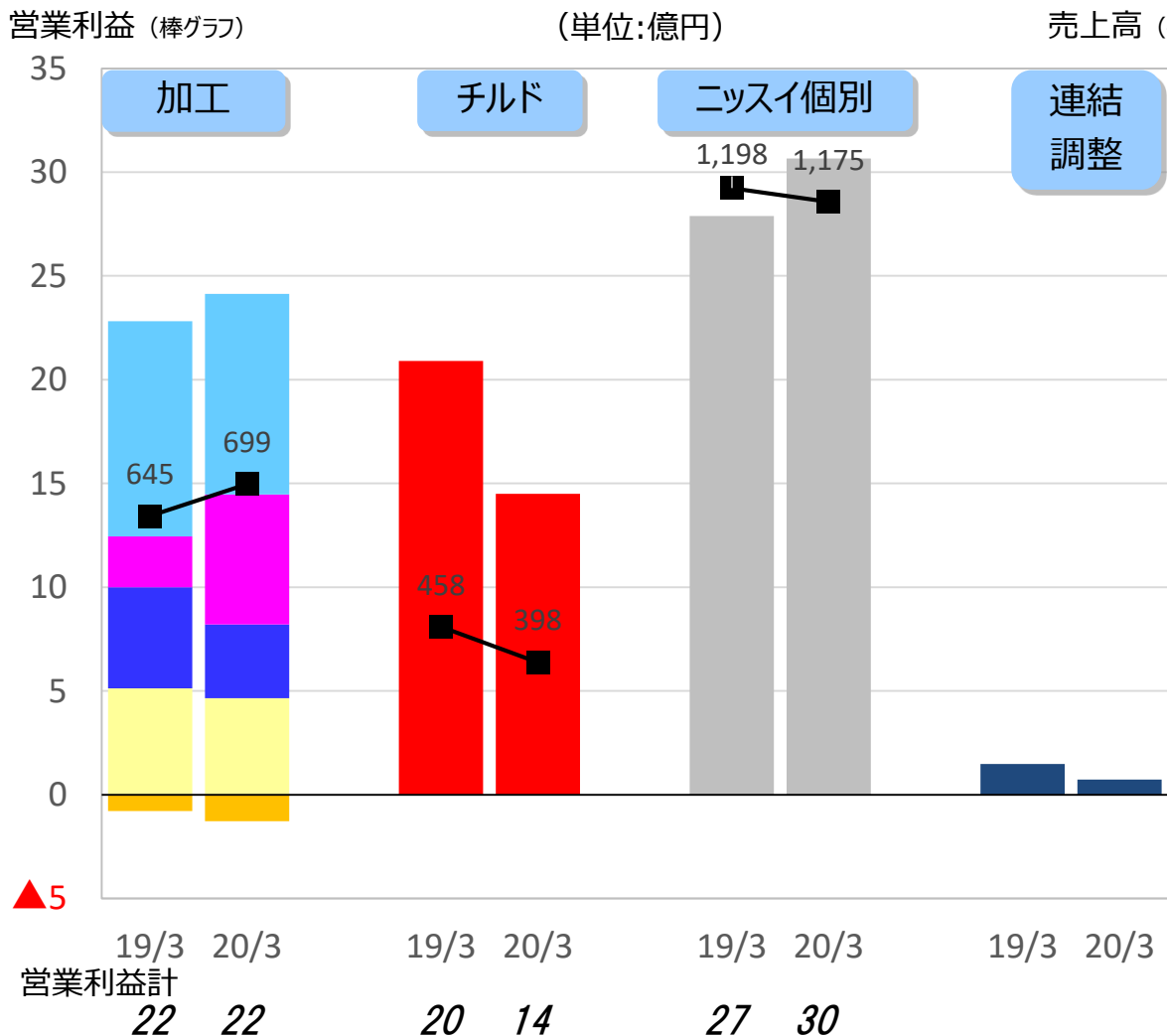


営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



チルド事業が天候不順の影響や新工場の減価償却費増により減益。北米と日本は業務用冷凍食品の販売が好調に推移。



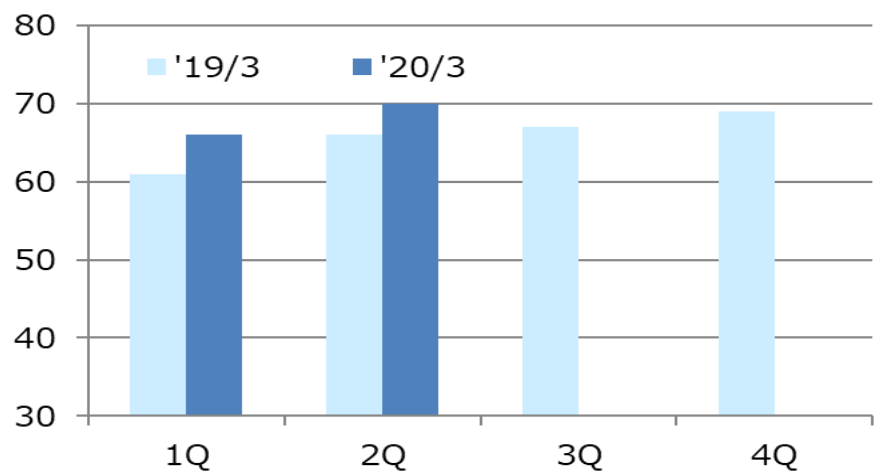
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

機能性原料の販売は国内外とも順調に推移するも、一部のグループ会社が減益となり全体では昨年並み。

(単位：億円)	2019年3月期	2020年3月期	対前年同期比増減	
	第2四半期	第2四半期	(億円)	(%)
売上高	<b>128</b>	<b>137</b>	<b>8</b>	<b>106.6</b>
営業利益	<b>11</b>	<b>11</b>	<b>0</b>	<b>101.9</b>

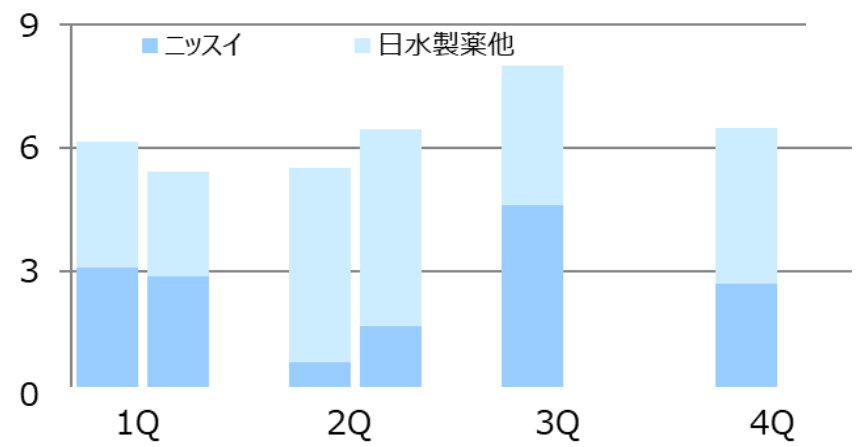
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

(単位：億円)

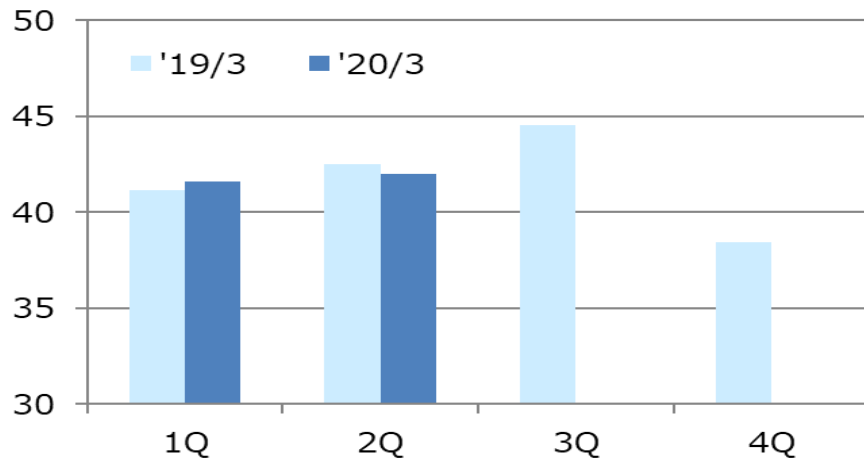


冷蔵倉庫事業は順調に推移するも、第1四半期の退職給付費用の増加をカバーしきれず。

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	(%)
売上高	83	83	0	100.3
営業利益	9	8	▲1	87.2

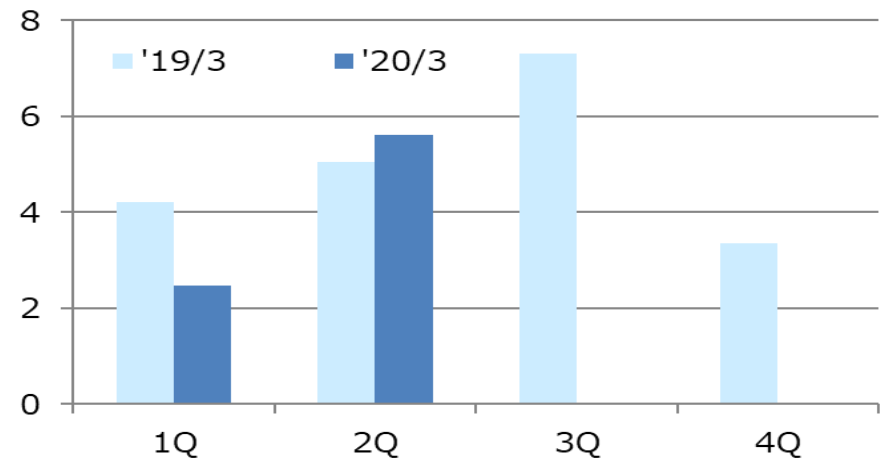
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



## エンジニアリング事業において受注減（前年の反動）により減収減益

(単位：億円)	2019年3月期	2020年3月期	対前年同期比増減	
	第2四半期	第2四半期	(億円)	(%)
売上高	165	90	▲74	54.8
営業利益	6	0	▲5	15.7

### 主な増減要因について

エンジニアリング事業はグループの受注が中心となっているが、前期（2019年3月期）はグループ外の冷蔵倉庫建設等の大型受注があった。今期はその反動があり減収減益となった。

### その他事業

#### 【エンジニアリング事業】

- プラント・設備機器の企画・設計・製作
- 建設に関する企画・設計・施工



日水物流舞洲物流センター

#### 【海洋関連事業】

- 海洋・深海調査船や探査機などの運行・管理業務を受託
- 船舶の建造・修繕



日本海洋事業が運航受託している有人潜水船「しんかい6500」（JAMSTEC所有） 15

米中貿易摩擦・ブレグジットに加え、国内では消費増税や天候不順などもあり不透明な状況だが、年間の利益計画に変更はない。なお、為替などの影響を鑑み売上を修正。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 修正計画	対前年比 増減		2020年3月期 期初計画	対期初計画比増減	
				(%)		(億円)	(%)
売上高	7,121 億円	7,000 億円	▲121 億円	98.3	7,100 億円	▲100	98.6
営業利益	216 億円	240 億円	23 億円	110.7	240 億円	0	100.0
経常利益	253 億円	265 億円	11 億円	104.5	265 億円	0	100.0
四半期 純利益	153 億円	175 億円	21 億円	113.8	175 億円	0	100.0



為替の影響や、北米・欧州での販売動向を踏まえ、売上を見直し。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 修正計画	対前年比増減		2020年3月期 期初計画	対期初計画比増減	
			(億円)	(%)		(億円)	(%)
<b>売上高</b>	<b>7,121</b>	<b>7,000</b>	<b>▲121</b>	<b>98.3</b>	<b>7,100</b>	<b>▲100</b>	<b>98.6</b>
水産事業	2,944	2,975	30	101.0	3,022	▲47	98.4
食品事業	3,378	3,366	▲12	99.6	3,414	▲48	98.6
ファインケミカル事業	265	281	15	106.0	281	0	100.0
物流事業	166	171	4	102.6	173	▲2	98.8
その他	366	207	▲159	56.5	210	▲3	98.6
<b>営業利益</b>	<b>216</b>	<b>240</b>	<b>23</b>	<b>110.7</b>	<b>240</b>	<b>0</b>	<b>100.0</b>
水産事業	102	134	31	130.3	134	0	100.0
食品事業	119	125	5	104.9	129	▲4	96.9
ファインケミカル事業	26	27	0	103.4	27	0	100.0
物流事業	19	18	▲1	90.5	20	▲2	90.0
その他	11	5	▲6	43.3	5	0	100.0
全社経費	▲62	▲69	▲6	110.0	▲75	6	92.0
<b>経常利益</b>	<b>253</b>	<b>265</b>	<b>11</b>	<b>104.5</b>	<b>265</b>	<b>0</b>	<b>100.0</b>
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>153</b>	<b>175</b>	<b>21</b>	<b>113.8</b>	<b>175</b>	<b>0</b>	<b>100.0</b>

※第1四半期連結会計期間より、組織再編の見直しに伴い、従来「食品セグメント」に分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を「食品セグメント」「水産セグメント」の2区分に変更している。2019年3月期実績および2020年3月期期初計画は遡及適用後の数値に変更し比較を行っている。

	2020年3月期 上期実績	2020年3月期 下期計画	2020年3月期 年間計画	2019年3月期 実績
売上高	1,413 億円	1,561 億円	<b>2,975</b> 億円	2,944 億円
営業利益	54 億円	79 億円	<b>134</b> 億円	102 億円

## 【欧州エリアの強化】

英国：水産加工事業の統合および  
サプライチェーンの強化

**flatfish** 水産加工事業を統合  
THE FUTURE OF FRESH OCEAN PRODUCE



## 【養殖成績の安定化と事業規模拡大】

銀鮭（国内）：稚魚馴致対策  
ぶり：周年供給に向け種苗センターの設備を增強、  
生簀大型化技術の確立を目指す。

鯖：マサバ陸上循環式養殖の事業化試験

沖合でスケールメリットを活かした養殖を目指す



大型生簀へのチャレンジ  
10m角生簀⇒30m角生簀へ

## 【認証取得魚種の拡大】

養殖・販売：持続的な養殖業を目指し、認証  
取得魚種を拡大。

# 養殖事業の拡大と水産エコラベル認証取得推進



生産国	チリ	日本							オーストラリア
	鮭鱒 (トラウト)	ぶり	まぐろ	鮭鱒 (銀鮭)	鯖	えび (VM)	かんぱち	スマ	えび (BT)
1988	事業開始								
2004									
2005									
2006									
2013									
2014									
2015									
2016							実験成功		
2017									
2018					陸上に移行		事業化 試験		
2019								試験生産	
2020									

資源の持続的利用、環境・社会への配慮を徹底し、付加価値向上を目指す



2019年10月  
から出荷開始

→ 認証取得の魚種拡大へ

	2020年3月期 上期実績	2020年3月期 下期計画	2020年3月期 年間計画	2019年3月期 実績
売上高	1,728 億円	1,637 億円	<b>3,366</b> 億円	3,378 億円
営業利益	68 億円	56 億円	<b>125</b> 億円	119 億円

## 【ライフスタイルの変化への対応】

中食市場への対応強化：グローバルで調理の手間を軽減できる商品を展開、即食・簡便・健康訴求商品の拡売

国内外各社で取組む即食・簡便な調理品



野菜パテ  
(肉不使用の代替タンパク製品)

## 【生産性向上による収益改善】

- 北米：ライン自動化による生産性向上
- 欧州：効率的な生産体制の構築、値上げの浸透
- アジア：加工工場新設し、クイックサービスレストラン・CVSマーケットへの展開を強化

自動化・省人化による  
生産性向上 (2020年完工)



2020年1月完成予定

	2020年3月期 上期実績	2020年3月期 下期計画	2020年3月期 年間計画	2019年3月期 実績
売上高	137 億円	143 億円	<b>281</b> 億円	265 億円
営業利益	11 億円	15 億円	<b>27</b> 億円	26 億円

## 【高純度EPAの海外展開の準備】

### 販売

販売先との契約交渉を継続

### 生産体制

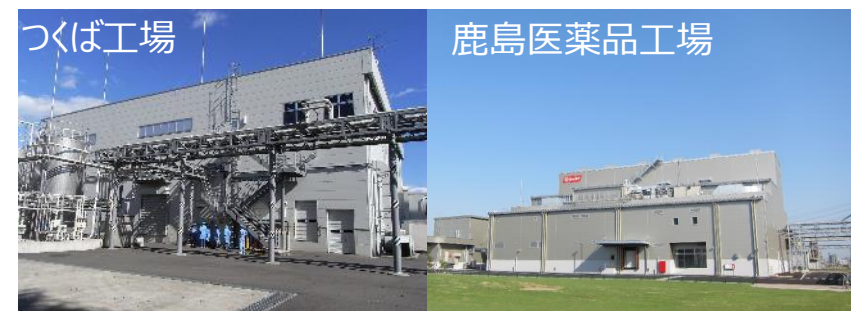
「cGMP(※1)」の認定取得を進める

### 品質保証

米国FDAのDMF (※2)登録申請は完了



## 2工場のDMF登録申請完了!



## 【機能性原料の収益力強化】

原料アクセス力の強化、収益力の高いアイテムヘシフト

※1 cGMP…米国で適用される医薬品適正製造基準

※2 DMF…米国FDA(食品医薬品局)による医薬品等登録原簿



## 「豊かな海を守り、持続可能な水産資源の利用と調達を推進する」

### 海洋環境・プラスチック部会を設置し活動開始

- ✓ 海洋環境におけるプラスチックのゼロエミッションを推進
- ✓ プラスチック資源の3R+Rを推進



- ・グループ内の現状把握に取り組んでおり、  
「ポリシー」「目指すべき姿」の検討を開始
- ・「SeaBOS」(※)に参画し、海洋プラスチックごみ問題  
など、持続的な水産事業のための課題解決に積極的  
に取り組む



SeaBOS 各社CEO (2019年9月)

※SeaBOS : Seafood Business for Ocean Stewardship (持続的な水産ビジネスを目指すイニシアティブ) の略  
日本、ノルウェー、タイ、米国、韓国など世界各国から水産企業が参加。  
検討テーマ：ガバナンス、海洋プラスチック、トレーサビリティ、抗生物質の使用、IUU漁業の削減、気候変動など

水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮しつつ、  
水産資源から多様な価値を創造し続け、  
事業を通じて社会の課題解決に取り組みます。

➤ 持続的な養殖事業の安定と拡大

- ・種苗設備増強、生簀大型化による養殖成績の安定と拡大
- ・陸上循環式養殖の展開
- ・認証取得魚種拡大による付加価値向上



➤ ライフスタイルの変化に対応

- ・グローバルに即食・簡便・健康訴求商品を展開、  
中食市場への対応強化



➤ 高純度EPAの海外展開

## 当第2四半期には大きな特別損益はない

(単位：億円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
売上高	3,504	3,454	▲ 50	} チルド事業の取引形態の変更影響 ▲50 ※営業利益への影響なし
売上総利益	695	665	▲ 30	
販売費・一般管理費	590	554	▲ 35	
営業利益	105	110	5	
営業外収益	23	20	▲ 3	為替差益▲ 4
営業外費用	9	9	0	
経常利益	119	121	1	
特別利益	4	2	▲ 1	固定資産売却益▲ 1
特別損失	2	4	1	投資有価証券評価損+ 1
税金等調整前四半期純利益	120	119	▲ 1	
法人税等	36	35	▲ 0	
法人税等調整額	11	2	▲ 9	
四半期純利益	72	80	7	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	3	2	▲ 1	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	69	78	9	



# 【参考】 為替換算による影響額(売上高)



## 円高（対ユーロ・デンマーククローネ）によるマイナス影響が拡大

主要在外会社の 為替換算レート	2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	542	587	631	694	88	106	96	9
EUR(百万ユーロ)	132	173	147	182	14	8	18	▲9
DKK(百万クローネ)	1,568	274	1,435	238	▲132	▲36	▲22	▲13
その他通貨	—	116	—	115	—	▲1	0	0
計		1,152		1,230		78	92	▲13

【参考：為替レート】

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	変動率
米ドル (USD)	109.53円	109.67円	0.1%
ユーロ (EUR)	129.01円	122.87円	▲4.8%
デンマーククローネ (DKK)	17.32円	16.46円	▲5.0%

# 【参考】セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,135 (6)	244 (21)	135 (49)	35 (▲1)	263 (▲35)	<b>1,814 (41)</b>	▲400 (▲49)	<b>1,413 (▲7)</b>
	1,128	222	85	37	298	<b>1,772</b>	▲351	<b>1,421</b>
食品事業	1,753 (▲73)	314 (37)		35 (▲0)	199 (6)	<b>2,302 (▲30)</b>	▲573 (52)	<b>1,728 (22)</b>
	1,826	276		35	192	<b>2,332</b>	▲625	<b>1,706</b>
ファイン事業	149 (9)			2 (▲0)		<b>151 (9)</b>	▲14 (▲1)	<b>137 (8)</b>
	139			2		<b>141</b>	▲13	<b>128</b>
物流事業	163 (7)					<b>163 (7)</b>	▲79 (▲6)	<b>83 (0)</b>
	156					<b>156</b>	▲72	<b>83</b>
その他事業	120 (▲86)			0 (▲0)		<b>120 (▲86)</b>	▲30 (11)	<b>90 (▲74)</b>
	206			0		<b>207</b>	▲42	<b>165</b>
仮計	<b>3,321 (▲136)</b>	<b>559 (59)</b>	<b>135 (49)</b>	<b>73 (▲2)</b>	<b>462 (▲28)</b>	<b>4,552 (▲57)</b>		
	<b>3,457</b>	<b>499</b>	<b>85</b>	<b>76</b>	<b>491</b>	<b>4,610</b>		
連結調整	▲858 (54)	▲84 (▲10)	▲94 (▲41)	▲53 (2)	▲6 (1)		▲1,098 (7)	
	▲913	▲74	▲53	▲55	▲8		▲1,105	
連結計	<b>2,462 (▲81)</b>	<b>475 (49)</b>	<b>40 (7)</b>	<b>20 (0)</b>	<b>455 (▲26)</b>			<b>3,454 (▲50)</b>
	<b>2,544</b>	<b>425</b>	<b>32</b>	<b>20</b>	<b>482</b>			<b>3,504</b>

※上段は当期実績、下段は前期実績、右肩括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前第2四半期連結累計期間と比較を行っている。

# 【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	14 (5)	6 (▲1)	37 (31)	0 (0)	5 (▲2)		63 (33)	▲9 (▲17)	54 (16)	3.8 (1.2)
	8	8	6	▲0	7		30	7	37	2.7
食品事業	45 (▲3)	9 (2)		3 (▲1)	8 (▲1)		67 (▲3)	0 (▲0)	68 (▲3)	4.0 (▲0.3)
	49	7		4	9		71	1	72	4.2
ファイン 事業	11 (0)			0 (▲0)			11 (0)	0 (▲0)	11 (0)	8.7 (▲0.4)
	10			0			11	0	11	9.1
物流事業	7 (▲1)						7 (▲1)	0 (0)	8 (▲1)	9.6 (▲1.5)
	9						9	0	9	11.1
その他 事業	0 (▲5)			0 (▲0)			0 (▲5)	0 (0)	0 (▲5)	1.1 (▲2.7)
	6			0			6	▲0	6	3.7
全社経費						▲33 (▲1)	▲33 (▲1)	0 (0)	▲32 (▲1)	
						▲31	▲31	0	▲31	
仮計	79 (▲4)	16 (0)	37 (31)	4 (▲0)	13 (▲3)	▲33 (▲1)	118 (22)			
	84	15	6	5	16	▲31	96			
連結調整	1 (1)	1 (1)	▲9 (▲19)	0 (0)	▲1 (▲1)	0 (0)		▲7 (▲17)		
	0	▲0	9	▲0	▲0	▲0		9		
連結 計	81 (▲3)	17 (2)	27 (12)	4 (▲0)	11 (▲4)	▲33 (▲1)			110 (5)	3.2 (0.2)
	84	15	15	4	16	▲31			105	3.0

※上段は当期実績、下段は前期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前第2四半期連結累計期間と比較を行っている。

# 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2019年11月5日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

